

… 雨でも休まず:第171・172回 …  
「小原本陣の森、若柳嵐山の森」から

- ・ 定例活動1、小原本陣の森: 8月 6日・第一土曜日; 森林整備、参加費: 300円  
弁当持参、9時15分、駅前集合、車分乗で行く。
- ・ 定例活動2、若柳嵐山の森: 8月 21日・第三日曜日; 里山交流、参加費: 500円  
弁当は、主食のみ持参、自分の食器をお忘れなく。  
この日は、国際FSC認証、本審査の日。そんなことも楽しく面白く。
- ・ 特別活動、甲州古道復活: 8月 27日・第四土曜日: 藤野町、参加費 無し。  
弁当持参、9時30分、藤野駅前集合。
- ・ 服 裝、汚れても良い格好、着替え、滑らない履物。
- ・ 持 参 品、軍手、万一の怪我に備えて・・・保険証コピー。
- ・ そして、作業を楽しむ「気持ちのゆとり・怪我しない心構え」

森林NPO… この不思議な活動

過酷な真夏の下草刈り作業に参加費500円を払ってキツイ・キケン・キタナイの3K労働に毎月、60人以上、多い時は、100人の参加者があります。これらの人々は、

何でも彼でも面白いことに変えてしまう。  
殆ど、不可能と思うことを形に変えてしまう。

指揮命令システムがあるような無いような混沌とした組織に見えますが、この森には厳然とした森林に対する考え方を共有する年齢・性別、全てに平等な円の組織があります。各自が好きなことに熱中しているのに、それが常にバランスが取れている不思議な活動です。

真夏の過酷な労働をしながら、50年後・100年後の森の姿をイメージして夫々の能力と関心の向くところで一心不乱に自己実現をしています。

今月は活動終了後、50年後の森を想定した「施業計画」を皆で相談しました。  
望星高校の教師2人と武藏工大の情報学部の学生が6人も参加してくれました。こんな若い人が50年後の施業計画つくりに参加してくれることは、後継者が育ちかかっていることを意味しています。  
50年後、私たちは確実にいないのですが、この若い人たちが発展した形で私たちと同じように後継者を育てている姿が見えるのです。こういう人の中から将来の森林を守る指導者が出てくることを思うにつけ、実際に充実した幸せな気分に満たされてきます。

## 活動報告 1、小原本陣の森

7月2日、湿度の高い薄曇りのこの日、21名と小原町から永井さん、小碇さんが参加。

仮設トイレを搬入したが、雨上がりの林道はぬかるんで途中から人力で担ぎ上げることとなった。雨後は、林道を傷めるので車は、入らないほうが良い。

今後、道具は、林道入り口からは運ぶことにする。



午前中は、園田隊長が午前は来れないので、大日向副隊長に指揮をお願いした。

森林を学びたいと、7月30日、31日に川崎の市民グループが来るから、お昼にはここの沢を利用して「流しそうめん」をサービスしようと沢筋を片付けることとした。

午後から、川崎と小原の幹部が30日、31日の進め方を「小原本陣」で話し合うので、後は頼んだよとお昼には本陣にむかった。1時から川崎の市民団体の千葉さん、川崎さんと園田・齊藤・加藤及び、小原町内会代表等と進め方について話し合った。森林地域：小原宿町内会挙げて受け入れてくれることを都市地域：川崎側は、大いに喜んだ。

園田隊長に「小原本陣の森」との関わり方向を示してもらった。以下、その要約。

小原町内の地域の繋がりは強いが、多数の小規模所有者は森を諦めている。そこで、当会と小原町と川崎など都市住民など一緒に「より良き森林の活用方法」を編み出すことを提案する。

そうすることで都市部の市民の森林への参加の道が開ける。この取り組みがうまくいけば、放置されている森林の現状を開拓するヒントくらいは提供できる。

それほどの特殊な人材や技術が無くても「俺たちもできそうだ」と思えるような取り組みを模索してみよう。当面の作業として、沢の整備など山の景観を整えつつ、道の整備をして、全体が見えるように、必要なことを実現していく。

## 活動報告 2、若柳嵐山の森

ジッとしているだけでも汗がにじみ出てくる雲の下がった7月17日の定例活動日、望星高校26人、東急グループ8人、武藏工大6人を含む63人が集まった。メイン作業は、崩壊斜面の植林地「灼熱地獄/望星の森:下草刈り」、水を補給して熱中症に注意すること。

午後から雨、の天気予報が外れて少しづつ雲が薄くなり夕刻は、薄日の差す夏日の様相に変わった。

## 「施業計画つくり」



50年後には、こうなる・・渓谷沿いの巨木の森



活動終了後、FSC推進班の林さんが来月の本審査に備えて宿題になっている「長期・中期・短期施業計画」を仲間たちに提示し、意見を求めた。

中心課題は「50年後の森のあるべき姿」だが、これはなかなか難しい問題でそれぞれの時代の要求を満たす柔軟性も求められる。

50年計画ということで我々、50歳以上の者の殆どがもう生きていないのだが、先を見据えて今を生きることは、受けた命を大切にすること意味する。森林は、素晴らしいことを指導してくれる。

認証の可否は未だ未確定だが、世界の森林状況を知りたいとドイツのFSC本部から「認証の森リスト」を取り寄せた。以下、凡その内容・・・2005年、5月末。

認証団体数 698団体

最大取得 SCA SAOG スエーデン 225万ha 自然・人工林

認証総面積 5400万ha

最小取得 POND WOOD 英国 16ha 造林業

認証国数 66ヶ国

このリストの中に民間・草の根運動としては見つからず、認証機関SGSとして未だ、聞いたことが無いと言っている。若しあれば、ネットワークを組んで意見の交換をして協働したい。

このようにして森林を学ぶに従つて、以下のようなことを考えるようになった。(地球の森林の総面積は現在38億haあって、毎年加速の付く森林減少面積が1500万ha。あと何年で森林が無くなるか)

「空気や水を供給してくれる森林を救えるのは、世界中の普通の人々が手を取り合つてのみ可能だ」と思う。そこで折りしも、FSC本部担当者が来日するということから、FSCと組んでこんなことも世界に発信したいと7月20日に園田さんとFSC推進班を同行して本部のMr. Doroste, Mr. Brinksに面会を申し入れた。雨でも休まず・・とか言いながら・森を楽しみながら8年、気が付いたらこんなことになっていた。いささか大袈裟だが、「夢はデカイほど面白く、夢も本気で見れば、夢は夢でなくなる」。

1885年、英国で牧師、主婦、教師が始めた「ナショナルトラスト運動」は、120年後の今、260万人の会員を要して今なお、活発に活動している。「世界の森林を救え運動」は、そんなことになつても良いと思う。現実の生活は厳しいが、森林は我々を受け入れてくれている。こんなことも仲間たちの生きるエネルギーになってくれれば嬉しい。

#### 臨時の報告1、：甲州道中研究会

この関係では、名のある三鷹の矢崎さんグループが当会の取り組む「甲州古道復活の現場」を見たいと言うことになった。7月5日、その日は他にも先約が入っていたため出迎えだけと早めに中里さん宅に立ち寄つた。

「何人位、参加でしようか」「さー、ねー、どのくらいでしょうかねー、聞いてみましょうか」

携帯通話は、電車に中だということだったが40人程の事。

「40人も・・・ですか」で閃いたのだが、溝口町長が相模湖駅でこのグループを歓迎してくれれば、きっと参加の人々は、喜んでくれるに違いない。

溝口町長は、出かける予定があったが、外出前の合間に工夫して応じてくださった。

このグループ、この日は、予瀬神社から貝沢～藤野～上野原まで楽しく古道を巡ったが、このようにして輪が広がって行く。



JR相模湖駅頭で研究会を歓迎する溝口町長

7月12日、朝からムシムシの蒸し暑さで、私たちのフィールド東慶寺の竹林の中は、陽射しは無いけれども、湿気と物凄い蚊の大群で機敏に動いていないと大変なことになる。

大汗をかきながらひたすらに作業を続ける。

この日、斎藤さんなどベテランが、名古屋万博に出張中で北鎌倉の町つくりの方々と新たなストックヤードを作るため、除伐竹を撤去した。竹は、随分と永く野積みにしていたために腐っていて本当は、焼却したかったのだがジットリと水気を含んでおりそれが出来なかった。もう、汗だく、フラフラで、前回、伐採した竹の整理まで手がまわらなかつた。

作業に参加した皆さんも絞るほどの汗で大変な作業日であったが、充実の一日であった。



東慶寺の竹林

その他の報告：森林資源：町有林の有効利用を実践している岩手県：紫波町訪問

7月7日～8日、桂川・相模川流域協議会主催する「町有林の有効活用に成功している同町」を訪問した。ここは全くの農村地帯だが「循環型町づくり」と方向を定めて、1) 有機資源循環 2) 森林資源循環 3) 無機資源循環 の有効活用の3本柱で町の活性化を図っている。

1) では、家畜の糞尿や残飯の有機肥料化で同町の農家に供給するだけでなく町の特産品として町外に出荷している。

問題は2) だが、未だ一般住宅までは広がっていないが、JR 紫波駅舎、上平沢小学校、上平沢虹の幼稚園を100%町有林の木で建てた。此処は、雪の多い地域で暖房に剪定枝・木屑・間伐などでペレットを作りヒーターや床暖房に活用して成功している。当会は、木質バイオマスエネルギー開発に取り組んでいるが、ここでの成功事例を参考にすれば良い。

何にしても、農業以外に何も無いこの地で町行政と地域住民との協働体制が実にうまく噛み合っており、これが一時は26000まで減った人口が今は、34000人までになった理由だと報告していた。政治がどのように機能するかが、地域を左右する教科書のような事例である。

#### 桂川・相模川流域を繋ぐ神奈川県と山梨県の森林政策

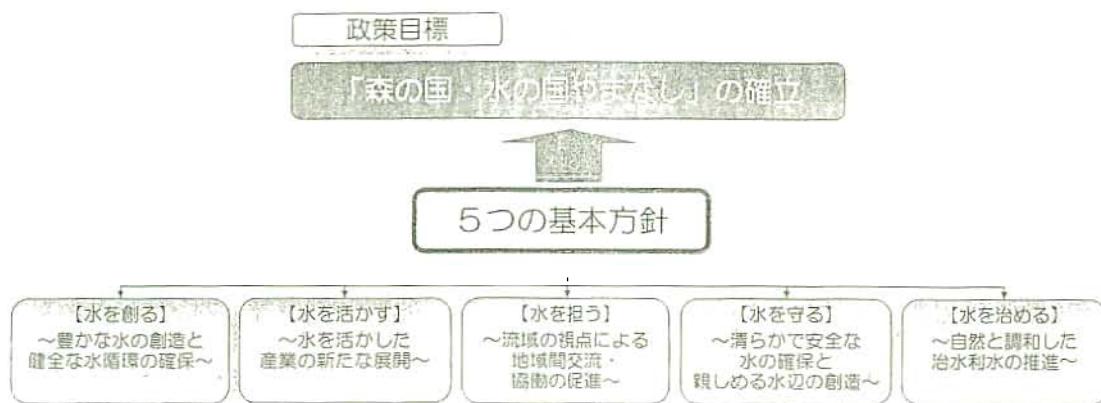
神奈川県では、「水源環境の保全・再生」という20年間にわたる本格的な森林再生の方法を5年掛けて論議している。水源保全税という新税の関することだけに県議会では、何度も差し戻しになっている。

6月の県議会では、自民党が「水質汚濁の原因は上流の山梨側にあるのだから神奈川県が負担するのは納得できない」と言い、また、神奈川ネットと共に新税反対の態度を取っている。年々、危機的な状況が加速しているのに前向きな視点を持てない反対論者が理解できない。

県議会が政策の是非をチェックするのは当然で、政策内容も改善されたのは歓迎だが、県議会と県行政の応酬は、学生のディベート：相手をやつづける議論のための議論、の印象を受ける。

山梨県は、「山梨県水政策基本方針」を本年3月に発表した。

基本方針として、「創る」「活かす」「守る」「担う」「治める」の5本柱を掲げている。



基本方針の各項目の説明文中に繰り返し相模川流域内の住民・NPOなどの市民団体との連携を訴えており、この実現のために県民市民団体・事業者・行政などが「行政区域を越えて連携」しなければならないとしている。現在、相模川流域で活動している市民団体は、当会緑のダム・北都留森林組合、甲斐東部製材組合・桂川相模川流域協議会である。行政の期待に応える活動内容に発展したい。

ところで、山梨県の出した水政策基本方針は、「行政区域を越えて」といいながら、神奈川県に向けて発信しているだろうか。反面、神奈川県側は、山梨県側の発信をキチンと受信しているだろうか。双方の発信・受信が的確に交信され政策に反映されているなら、県議会で上記のような発言が無い筈。

山梨県が上下流域を繋ぐことをNPOなど市民団体に期待しており、神奈川県も県民集会などで広く情報公開をして県民参加を求めている。国が公益性・多様性を求める森林経営の時代だから、行政共々、我々一般大衆はもっと、森林に肉薄しなければならない。

蜜蜂の話、1

黒川 将和

私の趣味のひとつに日本蜜蜂=和蜂の飼育がある。蜜蜂は家畜で一般に西洋蜜蜂=洋蜂を指しており、日本蜜蜂=和蜂とは、一線を引いている。

洋蜂は、皆さんご存知のとおり、黄色と黒の縞模様でこれは明治時代、養蜂技術と共に導入された。

和蜂は、日本古来のもので東洋蜜蜂の亜種で黒っぽく白と黒の縞模様で洋蜂より小型で、洋蜂よりコロニー当たりの頭数も少なく従って、採蜜量も少ない。和蜂は趣味の域を出ず「幻の蜜蜂」といわれている。

そんな和蜂を初めて見たのは、「若柳嵐山の森」であった。養蜂班が洋蜂飼育のかたわらに設置しておいた待箱：和蜂の分蜂のトラップ、に和蜂が入居しているのを見つけた時です。和蜂は、洋蜂と比べると地味で穏やかでも動きは俊敏である。

蜜蜂の最大の天敵は体型が7～8倍も大きい雀蜂だが雀蜂が襲ってくると、洋蜂は一対一で立ち向かうため、ばたばたとやられてしまつて誠に憎たらしい天敵である。その点、和蜂は、集団で防御するし巣箱の入り口が狭く雀蜂が巣に進入できないようになっている。

集団で防御するとは、雀蜂を大群で包みこんで蒸し殺してしまうそうである。それが理由かどうかは分からぬが、雀蜂は和蜂をあまり襲わないようだ。



左／古道：廃棄道になっていた貝沢を復元した。

下／相模渓谷に投網を打って魚類調査をした。



神奈川県から協働事業の4半期監査が入った。  
経理処理について他の模範になると報告書一式の記録  
を持って帰った。



お昼には、ソーメン流しを楽しんだ。

## 釣りのメッカ相模湖

相模湖は、水力発電、灌漑用水や飲料水の供給、観光産業、淡水漁業などの多目的ダムとしての役割を持っています。

往時の相模湖は、鮎漁が盛んで、甲州古道時代は鮎料理を提供する宿場として与瀬宿はその名を知られていました。相模湖が出現してからは釣りのメッカとして、淡水魚太公望垂涎の漁場となっています。相模湖の太公望の狙う魚族の代表はヘラ鮎、ワカサギ、ブラックバスです。その他、鯉、ヤマメ、イワナ、アマゴ等多種類の魚族が釣れます。

相模湖は魚族の成育度が早いことで有名です。毎年放流されるヘラ鮎も他の釣り場に比べて倍の速さで4.2センチ級の魚拓対象の成魚地になります。毎年人工孵化される3億粒と自然産卵孵化するワカサギは、肉付きが良く、しかも骨は柔らかく味は絶品です。

その要因は、相模湖が魚族の成長を促す栄養湖だからです。相模湖は、四周山々に囲まれています。南側は石老山から牧野と青根に続く峰峰を成す沢から肥沃な沢水が流れ込んでいます。東部は嵐山から続く尾房山から沢水や湧き水が流れこんでいます。北西部から小寒沢川、奥の沢、貝沢、北部は権現山から続く高い山から浸透水が与瀬地区の三段河岸段丘崖から良質な湧き水となり、至る所から流れ込んでいます。

西方からは多くの支流から水を集めて桂川が流れ込んでいます。これらの水は、動植物のプランクトンの増殖をもたらす肥沃な養分を含み栄養湖を成し、冬季でも水温は7度以下に下がることはありません。

相模湖の水位のバランスを計るために、多量の流入する水量と対比するダムからの放流により水が流れ相模湖の水は生きています。

JR中央線、中央自動車道、国道20号線、国道412号線の交通の利便性は、相模湖がつりのメッカとして太公望の垂涎の釣り場としての好条件を倍加しています。次回は奥畠の地名と由来について紹介します。

(文責 中里)

1、8月6日：第一土曜日	モットー：無理せず、急がず、休まず、楽しく、ボチボチと・・・
小原本陣の森、参加費300円	沢山の参加・ご意見ください。
2、8月21日：第三日曜日	名 称：さがみ湖・森つくりの会
若柳嵐山の森、参加費500円	NPO法人緑のダム北相模／森林部会
FSC国際認証・本審査	事務局：154-0023
3、8月27日：第四土曜日	東京都世田谷区若林3-35-9
甲州古道、藤野地区	T&F 03-3411-1636
参加費なし	お世話係：石村黄仁
HP： <a href="http://midorinodamu.jp">http://midorinodamu.jp</a>	<a href="http://www.oo8.upp.so-net.jp/kitasagami/">http://www.oo8.upp.so-net.jp/kitasagami/</a>

協働団体：神奈川県（企画部、津久井行政森林部）



ご支援団体：世界自然保護基金日本委員会、イオン財団、神奈川市民社会チャレンジ基金、  
東急コミュニティ、神奈川建具組合